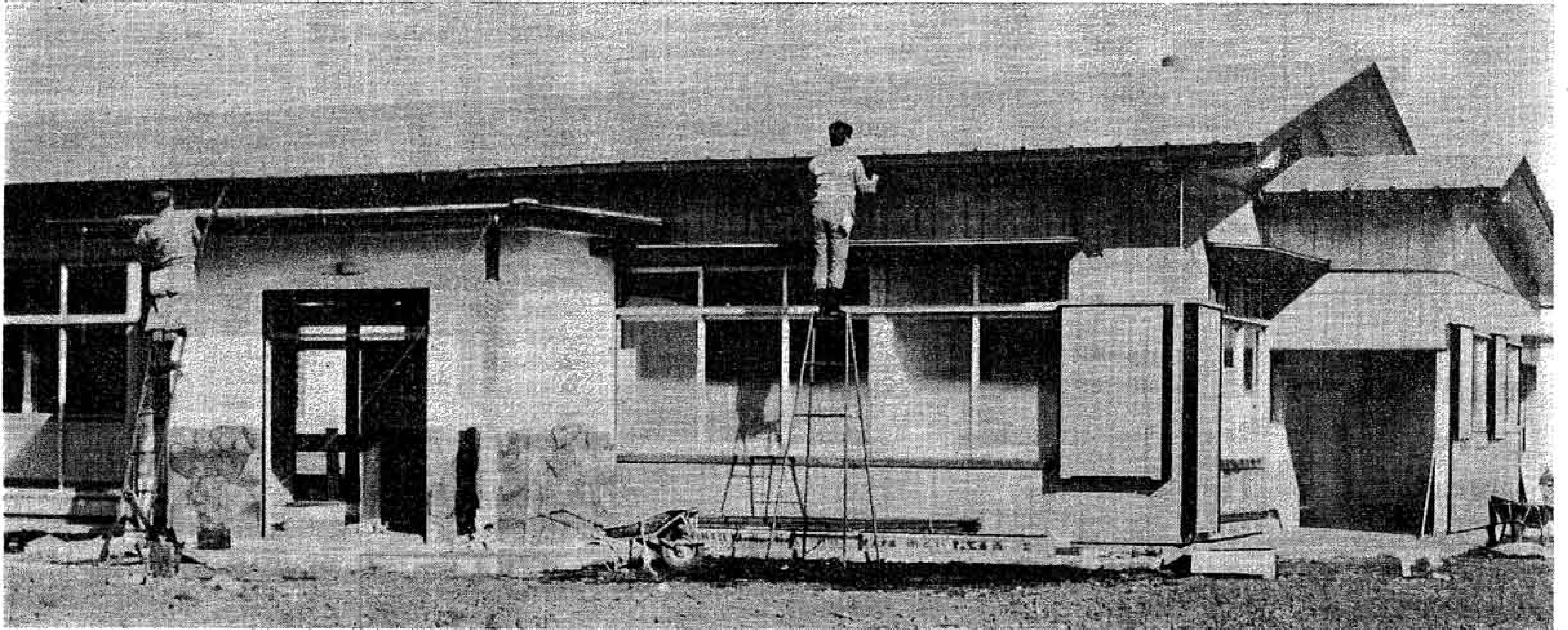


市民の動き

(2月1日現在)

男	84,145
女	81,982
合計	166,127
世帯数	38,315



“老人憩い”の家

4月開所

お年寄りが老後を楽しくすごす施設「老人憩いの家」は昨年12月から鷹岡天間に建設されていましたが、今月末に完成する見込みですので、市福祉事務所では4月から利用できるように準備を進めています。

老人憩いの家は、東洋インキ富士工場に隣接した1065平方メートルの敷地に工費526万円を投じ、建築面積204平方メートルの木造平屋建てで、50人収容の建物です。施設の内部は32畳の大広間一部屋、6畳の売店兼用の事務、6畳の管理人室、10人収容できる浴室二部屋がつくられます。浴室には東洋インキから出される摂氏60度の排湯を直径10センチのパイプで引湯します。この施設を利用できるのは市内に住む60才以上のお年寄りだけで、使用する場合は使用日の5日前までに福祉事務所へ届け出をしなければなりません。開所時間は毎日午前9時から午後4時までで、定期休日は毎週月曜日となっています。使用料はまだ決っておりませんが、1人20円から30円くらいです。

写真は開所を待つばかりの老人憩いの家 二日間

地下水を保全しよう

岳南地域地下水利用対策協議会（会長斉藤市長）が2月14日に発足し、今後の地下水利用対策を根本的に検討していくことになりました。

岳南地域地下水利用対策協議会は、地下水利用業者が国、県、市が一体となり、自主的に地下水の合理的な利用と保全をはかるために設けられたものです。今後の事業として地下水対策に必要な調査、水利利用の合理化、東駿河湾工業用水道建設の促進などを行なうとともに、新しくさく井する

ときは協議会に届け出て承認を得るなどを決めました。岳南地区の良質で豊富な地下水も、産業の進展にもなる地下水使用量の増加によつて昭和三十

和四十年に一六〇〇万円を投じて「地下水利用適正調査」を行ないました。この調査によると、岳南地区の地下水安全揚水量は、一日約八〇万トンと算定されているのに対し、現在の揚水量は約五〇万トン多い一三〇万トンにおよぶ地下水を毎日汲み上げていることがわかりました。また、地下



水塩水化の特徴は二つに大別され、和田川以西の地域では季節的に塩水量が急激に増減しているのに対し、和田川以東の流川沿岸や浮島沼などは少しずつ塩水量が増えていることがわかったほか、地下の深層部には地下水約九万トンがあることが明らかにされました。

このような調査をもとに同協議会は基本方針を次のように決めました。地下水の塩水化などを現状以上にしないため、地下水の揚水量は全体として現状の範囲で調整する。企業の生産増大などによる水需要に対し、積極的な水利利用の合理化をはかる。未開発の深層地下水については利用の調整を行なう。東駿河湾工業用水道の早期建設をすすめる。

岳南地域地下水利用対策協議会

バイオニア大学

北井勝男(22)



よく世間一般に「いまの若いものは」といいますが、私たちの仲間にはそういう者はひとりもいません。これは「いまの若い者」という言葉のなかに「いま」という言葉がはいる。現在の若者は一貫して自己の個性、あるいは意見や自分の道が決まってい

私は第二期バイオニア大生として昨年一年間、県下各地の仲間と青年活動のリーダーになろうと学びました。そこで得たことを二

三述べたいと思います。そして、社会人として最初から最後まで貫き通す一本の道を早くみわ

めること。そのなかにおいて自己を高める努力をすること。これが「いまの若い者」という世評を切り開く道ではないかと思ひました。次に良い友を多く持つことです。人間は環境に支配されやすいといわれます。そこで必要な

とは、自分を注意してくれる友よりも、一つの問題に対して考えさせてくれる友を多く持つたほうが、自分自身を高めるためにプラスになるのではないかと感じました。また私の経験から、なるべく自分と異なった個性のある人を友に選べということ。とかく同じ様な者同志になると一方にだつせんしやうしいし、そこになんの向上もないと思うからです。私自身バイオニア大学に参加して、団体生活の経験は一年しかありませんが、毎日の自分の生活に対し何か考えさせられた一年間でした。青年活動に対しいつそのフアイトを持ち、大勢の良き友が沢山できることを楽しみに、今後活動したいと思ひます。(中島町二・会社員)